

2019年度 学校自己評価シート(浦和実業学園高等学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学力の伸長(授業の充実と家庭学習の習慣化、能動的な学習態度の涵養) 2 徳育の推進(基本的生活習慣の確立と人格の陶冶) 3 自己実現のための進路指導の充実(進路実現の向上・高大連携への対応) 4 実学の実践(学校行事の充実と地域社会との連携) 5 生徒募集活動の充実(志願者数の増加と募集定員の確保) |
|------|--|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未達) |

| |
|----------|
| 出席者 |
| 懇話会委員 4名 |
| 学校関係者 6名 |

学校自己評価 2019年度評価

| 年度目標 | | 2019年度評価 | | 学校関係者評価 | |
|------|--|---|---|-------------|--|
| 番号 | 現状と課題 | 具体的方策 | 達成状況 | 達成度 | |
| | | | | 次年度への課題と改善策 | |
| 1 | <p>○本校は普通科5コース、商業科2コースで成り立っている。幅広い学力層の生徒が学んでおり、授業の理解度には個人差がある。したがって、コース・クラスごとの学習状況を正確に把握するとともに、個人の意欲や能力をしっかりと理解したうえで学習指導をする必要がある。</p> <p>○学習指導要領改訂の柱は「①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持ち多様な人々と協働して学ぶ態度」という学力の三要素の育成である。実現にはこれまで以上にアクティブラーニングを前面に押し出した授業がこれまでに再確認されており、今年度も引き続き実施していくべき事柄である。</p> <p>○生徒の学力の伸長に家庭学習の習慣化は欠かせないものである。その一助となるように各教科が適切な課題を与えるなどの工夫が必要となる。</p> | <p>○普段の授業や定期考査はもちろん、小テストの実施、休業中の課題などを通して各生徒の理解度を正確に測り、それぞれに応じた学力伸長を図る。</p> <p>○学習指導要領の改訂に備え、教科ごとにカリキュラムの再編成に取り組み、それに応じた教材を選定する。</p> <p>○昨年度実施した外部業者による「第三者授業診断」は、教員の意識改革という点でも有効であった。昨年の実施内容を踏まえ、より一層教員の資質向上に有効となるよう改善したうえで実施する。</p> <p>○「授業アンケート」を実施し、生徒を理解したうえで授業改善につなげる。また、予習・復習をはじめ、生徒自身の授業に取組む姿勢についても再確認させる。</p> <p>○課程・コースに応じた家庭学習課題を長期休業中だけでなく日常的に与え、授業内容を補完するとともに、家庭学習の習慣を身に着けさせる。また、「Classi」を用いて担任が生徒の家庭学習状況を把握し、適切なアドバイスを行う。</p> | <p>○朝の小テストは、学年ごとに英語を中心にSHRで実施。学力向上はもちろん、1時間目の授業に向けて気持ちを落ち着かせ、集中力を高める効果もあった。</p> <p>○学習指導要領の改訂に向け、教務担当及び各教科主任が7月末に実施された県による教育課程研究協議会の部会に参加。これを受け、カリキュラムの再編成に取り組んだ。</p> <p>○夏季共同研修を8月19日・20日に実施。内容は、KDDIの担当者による他校の事例を踏まえたiPadの利用方法と、東海大学情報教育センター白澤秀剛教授によるアクティブラーニング及びICT機器を用いた授業に関する講演。</p> <p>○第三者授業診断を、昨年に引き続きユエファール光延栄治氏に依頼。11月5日～8日の4日間にわたり、15名の教員の授業を光延氏と本校教員で観察した。当該教科以外の教員も含めた講評会では様々な視点によるアドバイスがあり、授業改善という観点から有意義であった。また、今年度よりiPadが全教員に貸与されたが、この授業診断でもiPadをはじめとするICT機器を用いた授業が多く見受けられた。多くの教員がそれらの授業を観察することで、アクティブラーニング及びICT機器を用いた授業がより推進されるきっかけともなった。</p> <p>○アンケート(生徒対象)を11月に実施。今後は集計結果について教科会で協議し、授業改善につなげたい。</p> <p>○家庭学習課題を教科ごとに長期休業中及び日常的に出题したが、未提出者への指導を含め、家庭学習習慣の定着に向けて今後も継続する必要がある。また、1年生を中心にClassiを用いた宿題の配信は効果的であった。</p> | B | <p>●iPadが全教員に貸与され、夏季休業中の研修等を経て授業に利用できるようになった。特に、理科の図解動画や英語のリスニング等に有効であった。導入初年度で手探りの部分があったので、研修等を重ねてより有効に活用したい。</p> <p>●第三者授業診断を導入して2年目であるが、第三者からのアドバイスが有効であるのはもちろんのこと、教員間において、授業を「見られる」だけでなく、「見る」ことについても意識を高めることができた。次年度も継続したい。</p> <p>●授業アンケートはシステムの不具合により全体の集計ができなかったが、個々の教員は結果を真摯に受け止めて授業改善につなげることができた。やはり、授業改善には効果があるので、次年度は別の方法での実施も考える。</p> <p>●Classiを用いた宿題配信が有効であることはもちろんだが、学習記録やポータル機能などを用いることで教員と生徒とのコミュニケーションが密になり、教員の生徒把握に役立っている。次年度も有効活用したい。</p> |
| 2 | <p>○登下校時のルールやマナー(自転車通学者を含む)については継続的に指導を行っているが、外部からの苦情の根絶には至っていない。今後も交通安全指導とともにトラブルを発生させないための対人マナーについて指導する必要がある。</p> <p>○公共心を育み、社会の一員としての自覚を促すため、学校周辺の清掃活動を通じて地域の美化に貢献することの教育的意義は大きい。今後も引き続き実施すべきである。</p> <p>○挨拶の励みや身だしなみを整えることは高校生としての品格を高め自覚を促す上で不可欠である。また生活習慣の乱れによる遅刻者にはその改善に向け別途指導を行う必要がある。</p> <p>○問題行動の未然防止と早期発見のため、教員は常に生徒理解の上立った指導を心掛ければならない。</p> <p>○心身の鍛錬と個性の伸長を期して部活動への参加を促し、教員・生徒とも、より活気溢れる学校づくりに努めるべきである。</p> <p>○重大事件につながる危険性の高い薬物乱用やSNS上の「出会い系」「詐欺」事件等については特に関係機関等を活用した指導も必要である。</p> <p>○安心で安全な学校環境を確保するため、「いじめ」「体罰」に関するアンケートを定期的に実施し、教員は常に状況の把握に努める必要がある。</p> | <p>○登下校時の生徒の安全確保とマナー向上のため、登校時8か所、下校時5か所に教員を配置し、指導に当たるとともに各ホームルームや集会においても生徒が自分の問題として捉え、考えられるよう指導法にも工夫を施す。</p> <p>○徳育の側面から奉仕活動(通学路清掃)を用いて全クラスに割り振り、継続的に実施する。またオアシス精神に基づいた言動を実践させるべく、各ホームルームや部活動、委員会活動等より活性化させる。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させるため、毎朝校門において遅刻者に対する指導を行い、さらに必要を認めた場合には保護者の協力も求めながら改善に向けたより効果的な指導を行う。</p> <p>○問題行動の防止と早期発見の観点から、昼休み時間等に校内の巡回指導を各学年単位で実施する。</p> <p>○教員は生徒に対し、部活動への積極的な参加を呼び掛けると共に、生徒がより意欲的に活動しやすい環境づくりに努める。</p> <p>○薬物乱用とSNSに関する問題については外部より専門家等を招いて全学的に指導を行う。</p> <p>○「いじめ」に関するアンケート(6・11月)と「体罰」に関するアンケート(9・2月)を実施し、事実確認と適切な対応を迅速に行う。</p> <p>○頭髮・服装等の整容指導、言葉遣いや生活態度に関する指導及びいじめや差別を含む人権教育に関わる指導についてはあらゆる場面で恒常的に行われるべき事項であり、生徒指導部を中心にさらに議論を深め、全ての教員が一致協力して実践する体制を確立する。</p> <p>○生徒の実態を把握するため、「スクールライフ」や「Classi」を有効に活用する。</p> | <p>○登下校の交通ルールとマナー向上のため、登校時8か所、下校時5か所に職員を配置し、通学路指導を継続的に実施した。また交通安全指導として自転車通学者に対しては並走の禁止、雨天時の雨合羽着用指導、スマートフォン・音楽機器等の使用による「ながら運転」に関する指導を継続的に行うと共に全校生徒向けに「自転車安全指導」を外部より講師を招くなどして実施した。</p> <p>○通学路を中心とした地域の清掃活動を年間を通じてインター外部・硬式野球部・駅伝部などに加えて全校68クラスに割り振り、実施した。</p> <p>○遅刻者に対する指導を毎朝校門付近において実施し、基本的生活習慣の改善を促した。</p> <p>○登校時に各クラス生活委員によるオアシス運動の実践及び身だしなみに関する呼びかけを行った。</p> <p>○昼休みを中心に校内巡回指導を学年別に実施し、問題行動の未然防止に努めた。</p> <p>○新入生に対しては特に体罰防止の加入を促しており、加入率はここ数年、全学年平均で60%強であったが、今年度においては70%に上昇した。</p> <p>○夏季休業直前の7月に埼玉県保健医療部薬務課の協力の下、薬物乱用防止のための全体指導を実施した。また「いじめ」に関するアンケートを6月・12月に、「体罰」に関するアンケートを9月・2月(予定)のそれぞれ年間2回行い、実態把握と問題の未然防止に努めた。</p> <p>○さいたま市や警察署等が主催する各種キャンペーン(サイバーセキュリティセミナー・秋の交通安全運動・高校生と乳幼児のふれあい事業・未成年者喫煙防止キャンペーンなど)に参加し、関係機関より評価された。</p> <p>○頭髮・服装等の身だしなみ指導を学年やホームルームを単位として継続的に行った。</p> | B | <p>●生徒の登下校時に実施している通学路指導の眼目は交通安全と公共マナーの体得・実践である。教員は生徒に対し、自己の安全を確保させると同時に他者に対する思慮・分別ある言動の重要性を理解させ、地域社会の成員としての自覚を促す指導を行う必要がある。</p> <p>●生活委員による身だしなみ・オアシス運動に関する声掛け、厚生委員による駐輪場の整理整頓、環境整備委員による清掃状況の点検など生徒を主体とした学校生活全般に係る改善活動を更に推進していくべきである。</p> <p>●交通安全、選挙セミナー、カンマーテング、サイバーセキュリティセミナー、未成年者喫煙防止キャンペーン、痴漢犯罪撲滅キャンペーンなど警察・行政等主催の各種活動への参加は生徒が「公共人」という生き方に共感し、意識の変化を醸成する上で有為な機会となるので今後も積極的に取り組ませたい。</p> <p>●頭髮・服装等の整容指導において教員は適切な言葉と姿勢を心掛け、感情に走ることなく、毅然とした態度で生徒の成長、変容を促す指導を行わなければならない。</p> <p>●より良い教育環境づくりのために薬物乱用防止等の非行防止指導及び、いじめ・体罰防止のための指導、アンケートを今後も定期的の実施していく。</p> |
| 3 | <p>○2018年度卒業生(2019年3月卒業)の進学状況は、希望達成率で見て昨年年度よりもやや高まったが、これは、特進部の希望達成率が大幅に上昇したことが要因である。本校は、課程・コースによって進路目標や入試のスタイルが異なるため、コースの特性に応じた進路指導が必要となる。どのコースでも共通して求められるのは、生徒の学力・適性を正確に把握し、それに適した進路指導と学力向上のための学習指導であることは言うまでもない。</p> <p>○進路目標を達成するには早期に目標を設定する必要がある。そのためには、生徒自身が自己の特性を把握しなければならない。二者面談など担任レベルでの指導はもちろんだが、進路指導室と学年が協力し、生徒の進路への意識を啓発する行事を組んだり、大学と連携して大学見学会など大学そのものを知る機会を作る必要がある。</p> <p>○授業を補充して学力向上を図るために課外の進学補習講座の充実させ、進路目標達成の一助となるよう、各種検定の取得を推し進めたい。</p> | <p>○各学年と進路指導室が連携し、外部講師を招いての進路講演会を計画的に実施する。また、大学見学会などのイベントを通じて生徒の進学意識を喚起する。</p> <p>○二者面談などを通じて生徒の適性や進路目標を把握し、各生徒の学力や適性に応じた進路指導を行う。また、教員のスキルアップのため、進路指導室と協力して大学や予備校の説明会に参加するなどの研修を実施する。</p> <p>○三者面談を実施して保護者と生徒の意思を確認し、進路目標実現に向けて協力関係を構築する。</p> <p>○具体的な数値目標は、普通科(一貫コースを除く)で、国公立大10名、難関私大20名、日東駒専80名、大東亜帝国100名、東京4理工40名の合格、商業科で、1高簿記1級2名、2級20名、3級50名、その他の各種検定1級取得者を延べ50名とする。</p> <p>○課外活動を充実させる指導の一環として、放課後の進学補習講座や検定対策講座を積極的に受講するよう促す。</p> | <p>○進路講演会などの行事を各学年と進路指導室が連携して実施し、生徒の進路意識の高揚を図った。主な具体的内容は次の通り。</p> <p>【6月】企業説明会(3年) 【7月】キャリアガイダンス(特進1年)・大学説明会(選進1年)・進路講演会(商1年)・進路相談会(2年)一般入試ガイダンス(選進3年) 【8月】大学見学会(特進2年) 【9月】進路講演会(選進2年) 【10月】一般入試ガイダンス(選進3年) 【11月】進路講演会・大学模擬授業(選進1年)・オンライン英会話体験(商1年)・入試システムガイダンス(選進3年) 【2月】進路講演会(選進2年・商2年)1年生には外部講師によるキャリアガイダンスを、2年生・3年生には大学見学会や大学入試担当者から直接話を聞けるような機会を設け、それぞれ進路に向けての意識の向上を図られた。</p> <p>○進路に関する教員研修を夏季休業中に校内で実施。2020年度新入試制度のポイントについて、全教員で情報を共有した。また、進路指導室と連携して外部業者や予備校、大学が催す研究・研修会、説明会に複数参加し、進路情報を生徒へフィードバックした。</p> <p>○三者面談を1学期・2学期に進路希望別に実施。保護者への進路情報の提供および意思の疎通を図った。</p> <p>○放課後の進学補習講座・検定対策講座は、1年生前期13講座・後期13講座、2年生前期10講座・後期14講座、3年生年間通して26講座を開講。全体で延べ13,776名の受講があった。</p> | C | <p>●現役進学実績(除一貫)は【国公立】7名、【早慶上理+GMARCH】17名、【日東駒専+獨協・文教】58名、【大東亜拓帝国】80名、【東・芝・電・工】17名、【成成明國武】10名であった。昨年比では、【早慶上理+GMARCH】が6名増加した以外は、ほぼ昨年並みである。【日東駒専+獨協・文教】までの上・中位校は特進部の合格者が増加し、選進コースは減じている。また、AO入試において過去にほぼ100%合格していた埼玉及び近隣の大学で不合格が出始めた。数年來の入学生員厳格化の影響が、あらゆる層の大学入試に及んでいることがうかがえる。</p> <p>●四大・短大・専門・就職の割合は例年並みで大きな変化はないが、四大の入試方式別割合に大きな変化が見られる。具体的に、過去数年間80%を越えていた普通科の一般入試の割合が70%弱となり、一方で20%弱だったAO・推薦入試の割合が30%を超えた。AO・推薦入試の内訳も、商業科ではAOの割合が減じ、合格の可能性が高い指定校推薦が増加している。このように生徒・保護者の安全志向は明らかであるが、次年度入試改革による学校推薦型選抜においては原則、学科試験が科されるので、すべての生徒に入試だけでなく入学後の学習に耐えうる学力を身につけさせなければならない。そのためには、今年度2年生で実施した進学指導をより充実させて生徒の意識向上を図るとともに、授業や補習の更なる充実が望まれる。</p> |
| 4 | <p>○各種の校外行事(オリエンテーションキャンプ、ハワイ短期留学、課題研究、進学・進路セミナー)を実施し、それぞれの目標達成に努めている。特に「総合的な学習」として2年次に行われるハワイ短期留学の様々なプログラムは青年期の発達段階にある生徒にとって資するところが大きい。今後さらにその教育的効果が高めるため、よりアクティブな取り組みが行われるよう内容をブラッシュアップしていく必要がある。</p> <p>○文化祭や体育祭の教育的効果の大きさは言うまでもない。過去の反省を今後の企画に活かし、生徒の意見も取り入れつつ、より質の高い行事となるよう工夫していく必要がある。</p> | <p>○オリエンテーションキャンプでは主に規則の遵守、公德心・協調性の獲得を重視し、教員は生徒のあらゆる取り組みが徳育につながるよう意識して指導に当たる。</p> <p>○ハワイ短期留学の実施に当たっては生徒の安全を第一に考え、事前の指導内容(実施の目的・安全・健康・生活態度等)の徹底を図った上で現地UHCと国際教育部との連絡を密にしながら進めていく。</p> <p>○大丸松坂屋上野店での課題研究(商業実習)ではキャリア教育の観点から指導を行い、研修担当者の協力を仰ぎつつ、望ましい職業観の育成と勤労意欲の向上を図る。</p> <p>○文化祭ではクラスをはじめ、その他各団体とも一致協力し、より文化的で質の高い取り組みとなるよう指導する。また食品を扱う場合には保菌検査や手指の消毒、キッチンロボの着用等衛生管理を徹底させる。</p> <p>○体育祭については演技種目に工夫を凝らしながら生徒が一体感や達成感を得られるよう指導し、文化祭ととも本校ならではの学校文化の醸成を期する。</p> | <p>○校外学園施設(静岡県南伊豆町みなみの荘)でのオリエンテーションキャンプでは集団生活の規律や協同精神の習得、またハイキングや野外炊飯などを通して自然に親しむと共に海岸の清掃など奉仕活動による公德心の涵養等の目標を概ね達成することができた。</p> <p>○ハワイ短期留学では異文化理解と語学研修を主たる目的として年間を通し、2クラスずつの12班に特別班を加えた13班編成で各班16日間のプログラムの実施をよけていたが、今般のコロナ禍の影響で残念ながら特別班の実施が見送られた。実施に当たっては生徒の安全を第一に考え、事前指導を徹底すると共に引率担当者と学年及びクラス担任との連絡を密に行った。</p> <p>○大丸松坂屋上野店の協力を得て商業科2年生情報進学コースを対象に7月期・12月期・1月期(予定)の3期に分けて課題研究(商業実習)をそれぞれ7日間にわたるキャリア教育として実施した。期間中生徒は接客販売・伝票整理・包装・仕分け・配送等の業務を通じて平素教室では経験することができない様々な職業体験をすることができ、店舗の指導スタッフの方や利用者の方からも高い評価を頂いた。</p> <p>○文化祭ではクラスや部活動の他、父母の会各部を含む89団体が参加し、それぞれ展示・販売・ステージ発表等の取組みに創意と工夫が見られた。また体育祭においては従前の競技種目に変更を加え、より多くの生徒がクラスの一員としての自己有用感を高められるよう工夫が施された。</p> | A | <p>●従来実施していた進学・進路セミナー、オリエンテーションキャンプ等の校外宿泊行事の成果を踏まえ、新たな取り組みを立案、構築し、これまで以上の教育効果を期して実施に臨む必要がある。</p> <p>●文化祭、体育祭などの行事は生徒の主体性、協調性、社会性、公德心の育成を考える上で非常に重要な取り組みである。内容の充実を図ると共に教員はこうした機会を通して生徒理解をより深めるべきである。</p> <p>●本校最大の特色ある行事と言える「ハワイ短期留学」はアクティブで主体的な学びを実現するための絶好の機会となっている。実施に当たっては生徒の安全を第一としながら、事前・事後の指導を徹底し、最大限の教育効果を引き出すための創意と工夫を常に念頭に置いて進めていくべきである。</p> <p>●商業科の課題研究(商業実習)は生徒の職業観を育て、進路選択や将来を見通す上でキャリア教育として大きな意義があり、内外の評価も高い。長年に亘る過去の成果を糧とし、事前・事後の指導も含めて今後一層の充実を図りたい。</p> |
| 5 | <p>○私立学校の存続において生徒募集が基礎であるということは言うまでもない。すべての教職員がその重要性を認識・理解して募集活動にあたるのが肝要である。昨年度は志願者・入学者ともに増加したが、県内私立学校に目を遣れば、増加したわけではなく、現状に甘んずることなく、受験生・保護者のニーズにこたえるために、学内改革を更に推し進めることが望まれる。</p> <p>○説明会だけでなくあらゆる機会を捉えて募集活動につなげ、本校の教育内容を広報し、選ばれる学校を目指す必要がある。</p> | <p>○教員一人ひとりが「学校の顔」であることを意識し、「待ち」の姿勢ではなく自発的に本校のPRに努めるために事前の打ち合わせを細密に行う。また、限られた予算を有効に執行するよう留意する。</p> <p>○WEBサイトを広報ツールとしてだけでなく、生徒・保護者への連絡手段として有効活用していく。</p> <p>○昨年度、説明会の事前予約システムを導入したこともあってか、来校者が増加した。一人でも多くの科に本校に足を運んでいただくためにも、説明会の内容を更に充実させ、円滑な運営を行う。また、中学校への進路学習会・模擬授業などにも積極的に参加し、受験者数の増加につなげる。</p> | <p>○毎年、さいたまスーパーアリーナで開催される彩の国進学フェアには5万人近くの受験生・保護者が訪れるが、本校のブースを印象付けるため、ブース作りを作成し、刷新した。</p> <p>○12月現在、県内中学校のPTAが来校する見学会は12校、進路講演会や出前授業は18校、2年生の上級学校体験は10校であった。こうしたイベントは本校の受験を視野に入れていない生徒や保護者への訴求効果が高く、入試説明会へ足を運ぶきっかけになるため、今後も可能な限り受け入れていきたい。</p> <p>○入試説明会、イベント説明会、体験入学など全てのイベントに関して事前予約制とし、イベント前日には参加者にリマインドメールの送信をおこなった。その結果、問い合わせ件数も減り、効率よく運営を行うことができた。また、台風19号の影響で10月12日に実施予定であった第4回入試説明会を中止した際の連絡もこのメール機能を利用して告知した結果、大きな混乱はなかった。</p> <p>○WEBサイトは生徒・保護者限定的閲覧ページを設けるべく管理者と打ち合わせをおこなっているが、現状ではまだ実施できていないため早急に対応していきたい。</p> | A | <p>●2020年度入試における志願者数は普通科2,435名(前年+12)、商業科1,517名(前年+16)、合計で3,952名(前年+28)であった。しかしながら、志願者・入学者において減少傾向の地区が散見されるので、当該地区に関して、志願者増加に結びつける運営が必要である。</p> <p>●次年度はオリンピック開催の関係から塾主催の外部での説明会が例年通り、実施されるか不明なので、受験生に本校の魅力をアピールする場が限られてしまう可能性がある。そのため、受け身の姿勢ではなく、これまで以上に塾や中学校へ積極的にアプローチする必要がある。</p> <p>●WEBでの出願手続きは2年目に入り、円滑に稼働できるようになったが、生徒情報をより有効に利用できるよう、可否発表、入学金決済まで行えるよう対応していきたい。</p> |

学校関係者評価

実施日:2020年6月27日

意見・要望・評価など

■学習指導について
○幅広い学力層の生徒が在籍していること、夏季休業中の補習などはどのように取り組んでいるのか?
⇒学力上位層や得意科目を更に伸ばす補習と、学力下位層や苦手科目を基礎から学び直す補習とに分けて実施している。
○Classiをもっと積極的に活用してはどうか?
⇒コロナ禍による自宅学習が長期化したことで、これまで以上にClassiの有効性が再認識された。学習課題のやり取りにとどまらず、各種連絡やアンケート調査など、多面的に活用している。

■生活指導について
○オアシス運動、とりわけ挨拶の励行は社会人になっても非常に大切な要素なので引き続き指導をお願いしたい。
⇒大丸松坂屋百貨店での商業実習では、例年にもないほどの高評価をいただいた。また、近隣にお住いの保護者の方からも高校生の善行を度々目撃しているとの言葉をいただき、救われる思いである。まだまだ地域社会の成員としての自覚が弱い生徒もいるので、引き続き指導にあたりたい。
○女子の冬季スノーキング着用について前回要望を伝えたがどのような結論になったか?
⇒申告制により黒色スノーキングの着用を許可することにした。
○部活動加入率が上昇したという点だが、生徒の目的意識がそれだけ高まっていることの現れなので、好ましいと思う。
⇒部活動のみならず、委員会活動も一段と活性化させて、生徒主体により良い学校を作っていくようにしたい。

■生徒募集について
○入試説明会にWeb予約制を導入したことでリマインドメールの送信が可能になったということだが、子を持つ親の立場からすればこのシステムは非常にありがたい。
⇒保護者の方は多忙なのでリマインドメールの送信によって学校との距離感が縮まった感じがすると好評である。引き続き実施していきたい。

■その他
○前回、就学支援金の書類をもう少し早い時期に配付してほしい旨を要望したが、今年度早い時期に配付していただき、準備期間に余裕が生まれたので非常にありがたかった。
⇒これからも保護者の方からの要望には可能な限り対応していきたい。